

◆【教員紹介シリーズ 生涯学習教育センター 藤田昇治先生】

今回は、弘前大学生涯学習教育センターの藤田昇治先生にお話を伺いました。それでは、ご覧ください。

—「生涯学習」という言葉がありますが、どのようなものなのですか。

人によって何に重点を置くかは異なりますが、一般的に分かりやすく言うと、「生まれてから死ぬまでにわたる生涯において行う様々な学習」ということを指す言葉です。人間は生涯学び続ける必要があるだろう、また、人間は学び続けることによって一人の人間として成長し続けられるだろう、という考えのもとに成り立っています。現代における教育の営みというのは、戦後の教育法の整備などを考えると、「家庭教育」、「学校教育」、「社会教育」の3つに分けられます。「家庭教育」は、子どもの頃を中心とした家庭内で行われる教育のことで、身体的な能力の発達や就学前までの知識・規範などを身に付けることを主な目的にしているものです。「学校教育」は、小中学校から大学までの教育のことで、「社会教育」は広く社会において行われる教育のことを指します。生涯学習については1965年くらいから国際的に話題になり、日本では80年代後半から政策として取り上げられるようになってきました。今示した3つの教育を全て含めた概念として生涯学習を捉えることとしています。生活している中で教育が全て生涯学習の一つとして考えられているわけです。人間は学び続けることで成長し続けることが出来る、とありますが、その逆も考えることが出来ます。例を挙げると、定年後から社会との関わりを持たなくなったり、スポーツや趣味などを続けなくなったりした時、人間としての成長がそこで止まってしまうということがあります。このことは生活不活発病と呼ばれることもあり、実際にそのような人は早く亡くなってしまいがちです。積極的に社会と交流を持つなどして、生涯学習に進んで取り組んでいくことが長生きすることに繋がっていくのです。

「生涯学習」と聞くと高齢者が生きがいを見つけるためだけのものと捉える人も多いのですが、実際はそれだけでなく、社会全体として高齢者が活躍できる場を作り、それを互いに支えていく、若い人たちに伝えていくという面も含まれているのです。地域の人とのコミュニケーションが重要視されています。私自身、この点はとても大切であると思います。

—先生はどのような研究をしているのですか。

一つは、「大学開放」はどうあるべきかを研究しています。大学が今まではどのようなことをしてきて、これから先は何を期待されているのか・求められているのかを明確にしていくことを追究しています。

二つ目は、博物館学とボランティア論についてです。授業でもこの分野を学生に教えています。博物館学は、私が以前北海道の博物館に勤めていたこともあり、弘前大学でもこの分野の研究を進めています。

#### —この研究を始めたきっかけを教えてください。

まずは大学に入ったとき、指導教員から様々なテーマを提示され、そこから興味のあるものを絞っていきました。また、就職先が博物館だったので、そこでは博物館学を掘り下げていこうと思いました。

「この分野を追究していこう」というよりも、社会から求められる研究内容を広げたり掘り下げたりすることで自分に対応してきたのかな、と感じています。そういうこともあり、人間をどう捉えるか、社会をどう捉えるか、自然と人間の間をどう捉えるか、ということを考える今の学問のベースになったと思います。人間は「この道一筋」という生き方もあるとは思いますが、挫折して転換することもあり、私のように仕事の関係でステップアップしたりすることもあると思います。生き方はいくつかあっても良いですよ。研究者でも、挫折を経験して分野を変更したことでノーベル賞を受賞するなどといった結果を残した方もいます。ふとしたきっかけや出会いも大切です。

#### —話は変わりますが、弘大の学生の印象を教えてください。

もちろん全員とは限りませんが、年々勉強しなくなっているという印象ですね。私はワークショップ型の授業を担当していて、そこで様々な学部の学生とコミュニケーションを取っていますが、専門的な事も一般教養も勉強不足かなと思います。入試方式など、社会がそうしているとも考えられるので仕方ないとも思いますが……。

なかなか余裕を持ちにくいとは思いますが、自分の分野に限らず幅広く色々なことを学んでほしいです。自分の専門ではないのでわからないというのではなく、他の分野にも目を向けていくことも大切だと感じています。

#### —最後に、学生に向けてメッセージをお願いします。

10代後半から20代というのは、色々な事を吸収でき、自分の人生観を確立することのできる重要な時期です。自分と真剣に向き合えるチャンスがあります。自分の視野を広げるためにも一生懸命に勉強してほしいです。もちろん部活やサークル活動をすることで良い人間関係を築いていくことも必要ですね。将来、主体的に社会に対して関わりを持っていく人間になってほしいです。

お忙しい中、ありがとうございました！

## ◆【編集後記】

藤田先生のお話にもあった通り、地域とのコミュニケーションは自分のためにも周りの人のためにもとても大切な事ですね。4年半が経った東日本大震災や今月の関東・東北の集中豪雨から痛感しました。防災道具の準備はもちろん、地域社会との関わりも欠かせないことの一つと改めて感じました。

さて、話は変わります。

あるテレビ番組で見た「人生は選択だ」という言葉が、最近自分の頭の中で回っています。今の自分があるのは、過去の自分の選択があるから。将来の自分を作るのは……？ さあ、一つの大きなことを決めるのに慎重になりそうです。ただ「慎重に選ぶ」という選択自体が……。難しいですね。(高崎)